

第1学年 ESD（生活科）学習指導案

日時 平成29年6月29日（木） 3校時

場所：1階ワークスペース 授業者：上原 玲子

1 単元名 「きれいにさいてね」（東京書籍）

2 児童の実態

1学年の子ども達は、外で遊んだり、自然と触れ合ったりすることが大好きで、生活科の時間を楽しみにしている。あさがおの種をまいた際には、形や色などをじっくり観察し、「すいかの種みたい。」「かどが三角みたいだ。」など自分の言葉で種の様子を表現していた。毎日、あさがおに水をやり、「芽が出てきたよ。」とか、「先生のはいっぱい芽が出てきたね。」とか、発芽に関して心待ちにしながら世話をすることができた。葉が増えてきた際には、自分たちで考え、よく話し合って間引きするということを決めることができた。一方で、あさがおの成長には気がついてはいるが、恥ずかしい・うまく言葉を見つけられないなどの理由で、なかなか自分なりの表現ができない児童もいる。そのような児童が、自分の気づきを表現できる方法を考えているところである。

3 ESDの視点に立った学習指導について

（1）教材について

本単元は、生活科の内容構成の具体的な視点の「キ 身近な自然との触れ合い」に属する学習である。植物を栽培する活動を通して、成長や変化の様子に関心を持ち、それらは生命をもっていることに気づいたり、親しみをもって大切に育てることができるようにしたりすることを目指す単元である。あさがおは発芽率が高く、栽培しやすい植物である。あさがおの成長には、「水やり」「追肥」「支柱立て」「草むしり」などいろいろな世話が必要である。これらを、児童の気づきの言葉を取り上げながら、自分たちで見つけていくことができるようにする。児童は毎日あさがおを観察しながら、いろいろなつづやきを発している。そのつづやきを取り上げ、みんなで共有することによって、「天候などに応じた適度な水やりが必要である」ことや、「肥料をやるとより元気に育っていく」ことなどを学習していく。もし、あさがおがぐったりしているような場合にも、どうしてそうなったのか、何をしてあげればよいのかを自分たちで考えさせる。そしてあさがおが活着していることを実感としてとらえられるようにする。その際、この時期の児童の特性から、あさがおの気持ちを考えさせる活動を行う。そうすることで、あさがおの栽培を自分のものとしてとらえ、親しみをもって大切に育てることができるようになる。と考える。

（2）持続可能な社会づくりとの関連

植物を育てることは、植物の日々の成長や変化や実りが、子どもたちに生命の営みを実感させるものである。継続的に世話をし、繰り返し関わる過程で、「もっと元気に育てほしい。」「もっと上手に育てたい。」という願いを持つようになり、その願いを実現させるために、生育環境や水、日照、肥料といった植物の育成条件に目を向けるようになる。この学習を通して、「身の回りにある植物がどのように育っていくのか。」「どのような世話をすればいいのか。」など関心を高め、日常生活の中に活かしていくことができるものとする。

なお、本単元では、授業を「持続可能な社会づくりの構成概念」のうち、「Ⅰ多様性」「Ⅱ相互性」から設計することにより、ESDの視点に立った学習指導が展開できると考える。

（3）本単元の学習指導で重視する能力・態度の内容とその指導

＜多様な観点から考え・見通しを持ってよりよい解決策を考える力＞

・・・以前の自分のあさがおと比較することにより、成長・変化しているあさがおにどんな世話をしたらよいのかを考える力

＜気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度＞

- ・・・自分だけでなく、友達のあさがおのことも見たり考えたりしながら、みんなでより良く育てたり表現したりする方法を考え、実践していこうとする力

これらの能力・態度を育てるために、次のような点に留意して指導を進める。

- ① スケッチだけでなく写真でも記録することにより、前回のあさがおの成長の様子とを比べ、今後のあさがおの成長や変化を予想できるようにする。
- ② 観察して気づいたことを観点ごとにまとめていくことで、より詳しく自分のあさがおを観察したり友達と気づきを共有したりすることができるようにする。
- ③ 「あさがおからの手紙」やあさがおの気持ちを考える活動など、児童が自分のあさがおを大切に育てようとする気持ちを養う工夫を行う。

4 単元の目標

植物を栽培する活動を通して、成長や変化の様子に関心をもち、見通しを持った活動を通して、それらは生命をもっていることに気づき、親しみを持って大切に育てることができるようにする。

5 指導計画と評価規準（総時数8時間）

次	時	活 動 内 容	関心・意欲・態度	思考・表現	気づき
1	1 2	植物への成長の願いを持って種をまく。	身近な植物に関心を持って関わろうとしている。	育ててみたい植物を選んだり決めたりしている。	
2	3	発芽の様子を観察し、記録カードにかく。	変化や成長の様子に関心を持って、繰り返し関わろうとしている。		<u>毎日の水やりで、芽が出たり成長したりすることに気づいている。</u> ＜多様な観点と見通し＞
	4 本時	あさがおの成長に合わせて、世話の仕方を工夫する。		<u>あさがおの変化や成長について考え、あさがおの立場に立って世話の仕方を考えている。</u> ＜交流と協力＞	<u>あさがおの成長に関心をもち、進んで自分の気づきを話すことができる。</u> ＜多様な観点と見通し＞
3	5 6	開花の喜びを絵や文で表現する。 あさがおの花で、造形作品をつくる。	あさがおに親しみを持ち、大切にしながら作品を作ろうとしている。		<u>あさがおは生命をもっていることや成長していることに気づいている。</u> ＜多様な観点と見通し＞
4	7 8	あさがおの成長の様子や自分の世話を振り返り、あさがおが成長した喜びを表現する。		<u>育ててきたあさがおとの関わりを振り返り、植物を育てる喜びを表現している。</u> ＜多様な観点と見通し＞	<u>あさがおへの親しみが増し、上手に世話ができるようになったことに気づいている。</u> ＜交流と協力＞

6 ねらい＜第4時＞

あさがおの世話をしてきたことや観察してきたことを通して、植物の変化や成長の様子に気づくとともに、適切な世話の仕方を考えることができるようにする。

7 指導過程

段階	学習活動・内容	時間	○指導上の留意点*ESDの視点に立った留意点 ・評価<ESDで重視する能力・態度>
導入	1 6月初めの頃のあさがおとどこが変わったのかを話し合い、本時のめあてをつかむ。 ・葉が大きくなったよ。 ・葉の数が増えた。 ・くきが長くなった。 ・くきがくるんとしている。 あさがおをげんきにそだてる さくせんをたてよう。	10	○実際に自分のあさがおを目の前に置き、あさがおの成長を実感できるようにする。 *6月上旬の自分のあさがおの写真と見比べながら観察させることにより、以前との変化に気づかせるようにする。<多様な観点と見通し>
	2 あさがおがこれからどんなふうに成長していくか予想する。 ・もっと上に向かってのびる。 ・くるくる丸まってくる。	10	○この後の成長について、ペアで交流させ、身体表現によって、あさがおの気持ちに迫らせる。 (発表)
	3 今のあさがおの気持ちを話し合い、どんな世話ができるか考える。 ・毎日、水やりしてくれてありがとう。 ・きれいな花を咲かせるよ。 ・間引きをしてくれて、ありがとう。 広々として気持ちがいいよ。 ・きれいだねって言われたい。 ・くき(つる)が伸びてきたよ。となりの植木鉢にくっついてしまう。 → 棒を立てよう。2年生は棒を立てているよ。 ・友達のと比べて元気がない。 → 肥料をあげよう。 1ねんせいのみんなへ このまえはまびきをしてくれたので、のびのびすごせるようになったよ。ありがとう。 でも、こまったことがあるんだ。つるがどんだんのびてきて、となりのあさがおとからまりそうになってきたんだ。 それに、なんだかげんきがでないんだ。なにかいいほうほうはないかな。	15	*観察して気づいたことや予想したことをもとに、あさがおの気持ちを考えさせる。 <交流と協力>
振り返り	4 これからどんな世話をするか、自分がやることを決め、あさがおに手紙を書く。 ・これからも水やりをしっかりとやるよ。 ・棒を立てて支えてあげるよ。 ・ごはん(ひりょう)をあげるよ。	10	○あさがおが児童の世話に感謝している側面と、これからの世話について心配する側面から、考えさせる。 ○くき(つる)が伸びてきた児童のあさがおを取り上げ、どんな世話ができるかペアで話し合わせる。 ○児童から意見が出たら、実際に肥料や支柱を見せ、今後の活動への意欲を持たせる。 *児童からの意見が出た後で、「あさがおからの手紙」を読み、自分たちで決めた考えに納得させたり、もっといい方法はないか考えさせたりする。 <交流と協力> ・あさがおの変化や成長について考え、あさがおの立場に立って世話の仕方を考えているか。(つぶやき・発表) <交流と協力> ○板書の中から言葉を選んで手紙の文章を書けるように工夫する。

